

2019年度

基礎看護学実習 I

[表紙 1]

【提出記録用紙】

- 1 実習評価表
- 2 課題レポート（実習後レポート）
- 3 日々の体験記録
- 4 実習前レポート
- 5 患者の療養生活環境の観察と気づき

学生証番号： K F _____

学生氏名： _____

実習期間： _____ 月 _____ 日 _____ ~ _____ 月 _____ 日

実習病院： _____ 病棟： _____

指導者名： _____

担当教員名 _____

看護学科 1 年 専門教育科目

2019年度

基礎看護学実習 I

[表紙2]

【提出記録用紙】

- 6 実習計画表
- 7 受け持ち患者と関わり理解したこと
- 8 プロセスレコード
- 9 合同カンファレンス資料

学生証番号： K F

学生氏名：

実習期間： 月 日 ~ 月 日

実習病院： 病棟：

指導者名：

担当教員名

看護学科 1 年 専門教育科目

授業科目名：基礎看護学実習 I

単位／時間：1 単位／4 5 時間

対象／開講：1 9 K F／1 年生 前期

担当教員：山口 由子、蔵本 文乃、千葉 美果、中川 三穂、牧原 和子、高柳 朋恵、
青山 泉、久永 千歳、瓜生 佳織、佐藤 えみ、本田 絵美

ディプロマポリシーとの関連：○該当する ◎特に該当する

- 1. 人間の生命と尊厳および権利を尊重した行動がとれる。
- 2. 自律した一人の人間として、社会や他者へ責任のある行動がとれる。
- 3. その人らしい生活を整える視点を持つことができる。
- 4. 科学的根拠に基づいた知識及び技術を用いて、対象にあった看護を計画的に提供できる。
- 5. 問題意識を持ち、学び続けることができる。
- 6. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を自覚し、主体的に行動できる。
- 7. 社会の変化に伴って生じる保健医療福祉の問題に関心をむけ、倫理的課題への感受性を高め、責任ある行動がとれる。
- 8. 幅広い視点から対象を理解し、経験を統合して自分のめざす看護が述べられる。

【目的】：

患者と関わり対象理解をすると共に、患者－看護師の関わり場に参加し、看護について考える。

【中核目標】：

- I 患者の思いや体験していることに関心を向け、対象理解ができる。
- II 看護活動を見学し、看護がどのように実践されているか関心がもてる。
- III 生活の場・治療の場である病院を理解し、看護が医療チームの人々と協力しながら行われていることに気づくことができる。
- IV 実習を通して、自分についての理解を深め、今後の成長の方向性を描くことができる。

中核目標 I 患者の思いや体験していることに関心を向け、対象理解ができる。

行 動 目 標

1. 看護学生にふさわしい言葉づかい・身だしなみ・態度で、他者と関わるができる。
2. その人を『一人の人』として尊重し、関わるができる。
3. その人の言葉だけでなく、言葉以外で表現していることにも関心を向けることができる。
4. 患者の病気と治療、行われている看護について、分かったことを述べるができる。
5. その人が、どのような思いで入院生活を送っているのかに関心を向け、対話（関わり）ができる。
6. その人の闘病生活の支えになっていることを、述べるができる。
7. 自分が患者とどのようにコミュニケーションをとっていたか、振り返ることができる。

中核目標 II 看護活動を見学し、看護がどのように実践されているか関心がもてる。

行 動 目 標

1. 看護師が、患者をどのように観察し状態を把握していたか、述べるができる。
2. 生活を整える看護がどのように行われているか、述べるができる。
3. 検査・治療の看護がどのように行われているか、述べるができる。
4. 看護師はどのような気遣いや配慮をしていたかを、具体的に説明できる。
5. 看護師の患者とのコミュニケーションから学んだことを述べるができる。
6. 看護援助が、患者の援助の必要性（どこまで自分でできて、どこに援助の必要性があるのか）をみきわめて行われていることを述べるができる。
7. 看護師が、どのように患者の安全を守り安楽に配慮していたかを述べるができる。

中核目標 III 生活の場・治療の場である病院を理解し、看護が医療チームの人々と協力しながら行われていることに気づくことができる。

行 動 目 標

1. 病院で生活をしている患者の立場で環境について考え、気付いたことを述べるができる。
2. 院内の安全対策（感染予防含む）がどのように行われているか、述べるができる。
3. 看護チームは、情報を共有し、適切なタイミングで報告・連絡・相談、協力していることを具体的に述べるができる。
4. 医療チームが、相互に協力することで医療がなりたっていることが確認できる。

中核目標 IV 実習を通して、自分についての理解を深め、今後の成長の方向性を描くことができる。

行 動 目 標

1. 看護を目指した動機、看護について考えていることなどを述べるができる。
2. 疑問に思ったこと・印象に残ったことについて、追求し意味づけることができる。
3. 自己の様々な感情や思いを受けとめ、自分についての理解を深めていくことができる。
4. 自己の言動に対し、「なぜそうするのか（根拠や理由）」を考えながら行動できる。
5. 実習を通して、看護について学んだことを具体的に述べるができる。
6. 実習を通して、自分の成長を肯定的に認め評価できる。
7. 看護学生としての今後の課題・方向性を述べるができる。

基礎看護学実習 I 評価表		学生証番号	実習場所	病棟		
		学生氏名	実習期間	～		
項 目			自己評価	臨床評価	教員評価	
目的	患者と関わり対象理解をすると共に、患者一看護師の関わり場に参加し、看護について考える。		良い ふつう 努力を要する	良い ふつう 努力を要する	良い ふつう 努力を要する	
中核目標 I	患者の思いや体験していることに関心を向け、対象理解ができる。					
	1. 看護学生にふさわしい言葉づかい・身だしなみ・態度で他者と関わることができる。		___	___	___	
	2. その人を『一人の人』として尊重し、関わることができる。		___	___	___	
	3. その人の言葉だけでなく、言葉以外で表現していることにも関心を向けることができる。		___	___	___	
	4. 患者の病気と治療、行われている看護について、分かったことを述べるができる。		___	___	___	
	5. その人が、どのような思いで入院生活を送っているのかに関心を向け、対話（関わり）ができる。		___	___	___	
	6. その人の闘病生活の支えになっていることを、述べるができる。		___	___	___	
	7. 自分が患者とどのようにコミュニケーションをとっていたか、振り返ることができる。		___	___	___	
中核目標 II	看護活動を見学し、看護がどのように実践されているか関心がもてる。					
	1. 看護師が、患者をどのように観察し状態を把握していたか、述べるができる。		___	___	___	
	2. 生活を整える看護がどのように行われているか、述べるができる。		___	___	___	
	3. 検査・治療の看護がどのように行われているか、述べるができる。		___	___	___	
	4. 看護師はどのような気遣いや配慮をしていたかを、具体的に説明できる。		___	___	___	
	5. 看護師の患者とのコミュニケーションから学んだことを述べるができる。		___	___	___	
	6. 看護援助が、患者の援助の必要性（どこまで自分でできて、どこに援助の必要性があるのか）をみきわめて行われていることを述べるができる。		___	___	___	
	7. 看護師が、どのように患者の安全を守り安楽に配慮していたかを述べるができる。		___	___	___	
中核目標 III	生活の場・治療の場である病院を理解し、看護が医療チームの人々と協力しながら行われていることに気づくことができる。					
	1. 病院で生活をしている患者の立場で環境について考え、気付いたことを述べるができる。		___	___	___	
	2. 院内の安全対策（感染予防含む）がどのように行われているか、述べるができる。		___	___	___	
	3. 看護チームは、情報を共有し、適切なタイミングで報告・連絡・相談、協力していることを具体的に述べるができる。		___	___	___	
	4. 医療チームが、相互に協力することで医療がなりたっていることが確認できる。		___	___	___	
中核目標 IV	実習を通して、自分についての理解を深め、今後の成長の方向性を描くことができる。					
	1. 看護を目指した動機、看護について考えていることなどを述べるができる。		___	___	___	
	2. 疑問に思ったこと・印象に残ったことについて、追求し意味づけることができる。		___	___	___	
	3. 自己の様々な感情や思いを受けとめ、自分についての理解を深めていくことができる。		___	___	___	
	4. 自己の言動に対し、「なぜそうするのか（根拠や理由）」を考えながら行動できる。		___	___	___	
	5. 実習を通して、看護について学んだことを具体的に述べるができる。		___	___	___	
	6. 実習を通して、自分の成長を肯定的に認め評価できる。		___	___	___	
	7. 看護学生としての今後の課題・方向性を述べるができる。		___	___	___	

基礎看護学実習 I 評価表		学生証番号	実習場所		病棟			
		学生氏名	実習期間		～			
項目	内 容				自己 評価	臨床 評価	教員 評価	
					良い ふつう 努力を要する	良い ふつう 努力を要する	良い ふつう 努力を要する	
学習方法の選択	実習計画	週間および日々の実習目標の設定				_ _	_ _	_ _
		実行可能な具体的な計画の立案				_ _	_ _	_ _
		日々の体験からの気づきと学び				_ _	_ _	_ _
		集団学習の企画・運営・役割遂行				_ _	_ _	_ _
実習に臨む準備	実習に対する関心・問題意識・課題				_ _	_ _	_ _	
	実習目的・目標・実習方法の理解と確認				_ _	_ _	_ _	
	日常生活の調整と健康管理				_ _	_ _	_ _	
学習態度	自主的・積極的な課題への取り組み				_ _	_ _	_ _	
	分からないことを「分からない」と言える				_ _	_ _	_ _	
	適切に、報告・連絡・相談ができる				_ _	_ _	_ _	
	相互の学習の共有				_ _	_ _	_ _	
	他者との協調				_ _	_ _	_ _	
点数					/111	/111	/111	
目標達成度					%	%	%	
出欠席	出席	欠席	遅刻	早退	備考			
	_ _	_ _	_ _	_ _				
自己評価	*実習を振り返って、達成できた点と今後の課題を具体的に記述して下さい。				臨床指導者評価	サイン _____ 印		
						サイン _____ 印		
					教員評価	サイン _____ 印		
<small>あり 普通 なし</small> 学習における充実感 _ _				総合評価 S ・ A ・ B ・ C ・ D ・ E				

【実習方法】

1. 事前学習をして実習に臨む
 - 1) 実習前課題レポート：テーマ「看護について考えていること」
看護を目指した動機、看護について考えていること、実習への期待と不安などを記入する。
A4レポート用紙2～3枚にまとめ、所定の場所に提出する。
 - 2) 実習に必要な知識・技術の復習：内容については別途指示する。
2. 実習時間は原則として8：30～16：30とする。
3. 実習初日に実習病院の概要および看護の概要について説明を受ける。
4. 実習初日に病棟オリエンテーションを受け、実習病院の見学をする。
5. 実習にあたっては「週間および日々の実習計画」を立案し、指導を受けて実習を行う。
6. 看護師の看護活動の場面を見学する。
7. 受け持ち患者を一人受け持ち、積極的に関わりを持つ。(患者の話に傾聴する・対話するなど)
8. 日々の実習に対して、「日々の体験記録」を記載し、翌朝指導者に提出する。
9. 原則として、毎日カンファレンスを行う。
 - 1) カンファレンスの企画・運営は学生が主体で行い、運営方法を学習する。
 - 2) 司会・書記・タイムキーパーなどの役割を決め、実習中に全員がそれぞれの役割を体験できるようにする。
 - 3) カンファレンスでは積極的に意見交換を行い、自己の考えを深めるとともに自己理解および相互理解を深める場にしていく。
10. 実習のまとめとして合同カンファレンスを行う。各自の実習での学びの発表およびそれらについて意見交換することを通して、学びの共有や自己の学びを深める機会とする。
11. 実習は実習計画に沿って行うが、患者の状況によって予定を変更する場合もある。
12. 実習終了時に、課題レポート「基礎看護学実習Ⅰを通して学んだこと」を作成し、実習記録提出時に一緒に提出する。

なお、レポートにはサブテーマをつけること（A4レポート用紙2,3枚にまとめ、表紙をつける）。

【実習評価】

1. 評価は事前学習、実習中の行動・態度、提出された記録類など、実習の全プロセスをその対象とし、評価表に基づいて行う。
2. 実習評価にあたっては、最終評価の前に学生・臨床指導者・教員の3者で面接を行い、実習目的・目標の達成度や今後の課題などについて話し合い、共有する。その際、学生は評価表に沿って自己評価を記載して面接に臨む。
3. 評価は、評価表をもとに学生の自己評価と臨床指導者及び教員の評価によって行う。最終評価はS・A・B・C・D・Eで判定する。

評価表の各項目の評価基準は、以下の3段階とする

- ・よい：3点（80%以上達成している場合）
- ・ふつう：2点（60～79%達成している場合）
- ・努力を要する：1点（達成度が59%以下）

19KF 基礎看護学実習Ⅰ 実習計画

	月/日	曜日	AM	PM
	事前		実習前オリエンテーション	* <u>実習要項を必ず持参のこと</u>
1	9/2	月	実習に関する諸注意事項 看護部長の話 指導者との顔合わせ グループミーティング 病棟オリエンテーション (臨床指導者・担当教員)	院内見学 受け持ち患者の決定 受け持ち患者への挨拶 カンファレンス (院内見学で気づいたことを話し合う) 記録の整理
2	9/3	火	看護活動の見学および受け持ち患者と関わる	看護活動の見学および受け持ち患者と関わる カンファレンス 記録の整理
3	9/4	水	看護活動の見学および受け持ち患者と関わる	看護活動の見学および受け持ち患者と関わる カンファレンス 記録の整理
4	9/5	木	看護活動の見学および受け持ち患者と関わる カンファレンス	合同カンファレンス準備 (合同カンファレンス資料を検討し、まとめる)
5	9/6	金	合同カンファレンスの準備 合同カンファレンス	評価面接・記録整理

*実習計画は、学生の学習状況及び患者の状態に応じて計画を変更することがあります。

基礎看護学実習 I 提出する記録物について

注) 記録の書き方については、総説をよく読んで記載してください。

ピンクの表紙：返却される記録類

表紙 1 に①～⑤までを順にとじ、厚紙の裏表紙を付け、綴り紐でとじる。

記録用紙	記載上の注意事項	
①実習評価表 No.1.2.	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の基準は「総説」を参照し、記載する。 ・学生証番号と氏名は、すべての頁に記入する。 ・出欠席・遅刻早退も各自で記入する。 ・自己評価は○をつけ、「点数」「目標達成度 (%)」を記入して評価面接に臨む。面接終了後、評価を●に修正する。 	黒のボールペンで書く フリクション不可
②課題レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「基礎看護学実習 I を通して学んだこと」サブテーマをつける ・レポートの書式は、実習前レポートに準ずる。 	黒のボールペン、またはパソコンで作成する。 手書きで記載した場合の修正は、修正テープや修正液を使用する。
③日々の体験記録	<ul style="list-style-type: none"> ・総説の記載方法をよく読んで記載する ・月～金曜日の 1 週間分 ・A4 レポート用紙 (手書きの場合、罫線のない白紙の用紙は使用しない) 	
④実習前レポート	実習最終日に臨床指導者・教員より受け取る。	
⑤患者の療養生活環境の観察と気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・病棟の環境について考える ・受け持ち患者の療養環境について考える 所定の用紙に、事前に「注意して観察したい点とその理由」を記入、見学後「わかったこと・気づいたこと」を記入し提出する。	鉛筆書きで良い

*パソコンなどの電子媒体を使用して「課題レポート」や「日々の体験記録」を作成する場合は、記載者本人のみが使用可能な状態 (アクセス制限) とするようパスワードを設定する。また、USB メモリーなどの記憶媒体を使用する際は、記載者本人しか見ることができないようパスワードを設定し、厳重に管理する。

グリーンの表紙：返却されない記録類（閲覧可）

表紙2に⑥～⑧を順にとじて、厚紙の裏表紙を付け綴り紐でとじる。

⑥実習計画表	<ul style="list-style-type: none">・患者名は「A氏」とする。・実習は、1週／1週、全実習は1週／23週とする。（総説参照）	黒のボールペンで記載。 修正箇所は『赤』で記載する。
⑦受け持ち患者と関わり理解したこと	<ul style="list-style-type: none">・下書きを使用した場合は、本書き用紙・下書きの順でとじる。・患者名は「A氏」とする。絵や図、色付けも可能。理解したことを日々書き加えていく。	鉛筆書きで良い
⑧プロセスレコード	<ul style="list-style-type: none">・実習記録に入っている原本をコピーして使用。・総説の「活用の手引」をよく読み記載する。	鉛筆書きで良い
⑨合同カンファレンス資料	<ul style="list-style-type: none">・下書きを使用した場合は、本書き用紙・下書きの順でとじる。患者名は「A氏」とする。・患者紹介では、発表に必要な情報を精選して載せる。・実習要項と「合同カンファレンス資料作成に向けて」をよく読む	鉛筆書きで良いが、コピーで写るように濃く記載。 学生が、各自必要枚数をコピーする。

※ 提出日時： 9月9日(月)13：00までに、指定の場所に提出する。

※ 提出時は不備がないか、グループメンバーとダブルチェックすること。

2019年度 東海大学医療技術短期大学 看護学科 基礎看護学実習 I
東海大学医学部附属病院 院内見学部署

1 見学目的

- 1) 自分が注意して見たい点を明確にして院内見学し、患者の【生活の場】であり、【治療の場】である病院について理解を深める

2 見学コース

- 1) 以下、「生活の場」「治療の場」は見学コースに必要な範囲で組み入れる
- 2) 学生の実習病棟に関連した外来および関連部署は必要な範囲で見学コースに組み入れる

3 見学時の注意

- 1) 外来、リハビリテーションセンターなどでは周囲に配慮の上見学する(短時間)
- 2) 臨床指導者から見学時、その部署の機能について簡単な説明をする

【生活の場】

コンビニエンスストア	クリーニング店	理容室・美容室	食堂
郵便局	本屋	花屋	旅行代理店

【治療の場】

検体検査	放射線治療	核医学	東海ホール
各診療センター	血管造影	血液センター	薬剤部
時間外外来	入退院センター	防災センター	画像検査センター
腎センター	高度救命救急センター	内視鏡センター	生理検査
E I C U ・ 熱傷センター ・ E H I C U			
小児科	中央手術室	中央材料室	栄養科
N I C U	小児病棟	M F I C U	産科
I C U	C C U	小児病棟 東海学級	特別病棟

以上

2019年度 東海大学医療技術短期大学 看護学科 基礎看護学実習 I
東海大学医学部附属大磯病院 院内見学部署

1 見学目的

- 1) 自分が注意して見たい点を明確にして院内見学し、患者の【生活の場】であり、【治療の場】である病院について理解を深める

2 見学コース

- 1) 以下、「生活の場」「治療の場」は見学コースに必要な範囲で組み入れる
- 2) 学生の実習病棟に関連した外来および関連部署は必要な範囲で見学コースに組み入れる

3 見学時の注意

- 1) 外来、リハビリテーションセンターなどでは周囲に配慮の上見学する(短時間)
- 2) 臨床指導者から見学時、その部署の機能について簡単な説明をする

【生活の場】

コンビニエンスストア コインランドリー 食堂

【治療の場】

中央手術室	中央材料滅菌室	栄養科	薬剤科
放射線室(MRI)	カルテ保管庫	玄関	救急外来
受付・会計	検査室	放射線室	内視鏡室
各科外来	栄養指導室	人間ドッグ控室	リハビリテーション室
人工腎室	総合相談室	特殊浴室	地域包括ケア病棟
青松ホール	5階会議室	事務課	

以上

合同カンファレンスについて

基礎看護学実習 I

<目的>

1. 学生が、互いに実習での自分の学びを発表し、質疑応答を通して学びを明確にしたり、広げたり、深めていく。
(自分の学びをまとめる・他者に自分の学びを伝える・他者の言おうとしていることを聴く・重要な点をつかむ・疑問をもつ・アドバイスを受け入れ今後生かしていく姿勢をもつなど様々な力が培われる)

<方法>

1. 学生は一人ずつ資料を活用しながら発表する。
2. 学生が、司会・書記・タイムキーパーなどを分担し、主体的に運営する。

<発表までの準備>

1. 一人あたりの発表時間・質疑応答の時間・講評（指導者・病棟責任者・教員からの意見・感想・評価など）の時間や休憩時間のことも考え、合同カンファレンスのスケジュールを作る。
2. 合同カンファレンスの資料を準備する（何を発表したいかを決め、臨床指導者・教員に相談し、アドバイスをもらう）
3. 合同カンファレンスに必要な資料の数（学生・教員・臨床指導者・病棟責任者に配布する数）を確認する。
4. 事前に合同カンファレンスが行われる場所の広さや机やイスの数を確認し、配置を考え、当日始まるまでに余裕をもって準備する。（参加者の顔が互いに見える配置が望ましい）
5. 活発な意見交換ができるための工夫をする（どの学生も最低1回は質問や、意見を述べるようにする。発表を聞きながら質問を作り出す力をつけよう）

<合同カンファレンス資料の内容>

下記の内容を所定のA3用紙1枚にまとめ、合同カンファレンス参加人数分コピーし、発表順に綴じる。

基礎看護学実習 I 合同カンファレンス資料

G名・学生証番号・氏名

テーマとサブテーマ（学んだことがわかるような具体的なテーマを考える）

1. はじめに（このテーマを選んだ理由や何を学んだのかを簡潔に述べる）
2. 学びが得られた場面や事実（具体的に、他の人が読んでわかるように表現する）
3. 何を学んだか
4. 今後に向けて

注意：配布した資料は、終了後、責任を持ってシュレッダーにかけること

実習計画表

週間実習目標	月 日 ()		月 日 ()	
	日々の目標			
	時間 受持患者	行動計画	時間 受持患者	行動計画
	実習内容			
	実習 週 / 週	全実習 週 / 週	学生氏名 :	受持患者 :

実習計画表

	月 日 ()		月 日 ()		月 日 ()	
日々の目標						
	時間	受持患者	行動計画	時間	受持患者	行動計画
実習内容						
実習 週 / 週		全実習 週 / 週		学生氏名 :		受持患者 :

患者の療養生活環境の観察と気づき No.1

学生証番号： KF

氏名：

実習病棟

1. 病院・病棟の環境について考える

- ・病院・病棟の環境について、「②注意して観察したい点とその理由」を記入する。
- ・①の列の空欄は、挙がっている項目以外で見学し学びたいと思う場所を記入する。
- ・①②は実習初日までに記入する。
- ・病院・病棟の環境を実際に観察して「③わかったこと・気づいたこと」を記入する。
初日の院内見学だけでなく、日々の実習の中で「③わかったこと・気づいたこと」を適宜追加する。

1) 共有スペース

①	②注意して観察したい点とその理由	③わかったこと・気づいたこと
廊下		
エレベーター		
食堂 ラウンジ		
売店		
洗面所 トイレ		

①	②注意して観察したい点とその理由	③わかったこと・気づいたこと
シャワー 浴室		

2) 特殊な療養環境

①	②注意して観察したい点とその理由	③わかったこと・気づいたこと
小児 病棟		
リハビリ テーション室		

①	②注意して観察したい点とその理由	③わかったこと・気づいたこと
ICU		

3) その他

①	②注意して観察したい点とその理由	③わかったこと・気づいたこと
外来		
ナース ステーション		
感染予防 対策		

患者の療養生活環境の観察と気づき No.2

学生証番号： KF

氏名：

実習病棟

2. 受け持ち患者の療養環境について考える

- 受け持ち患者の療養環境（病室・病床）を観察して「わかったこと・気づいたこと」を記入する。
図示もしてもよい。
- 実習1日目から4日目まで毎日記入する。

月日	患者の療養生活環境の観察を観察してわかったこと、気づいたこと
/ ()	
/ ()	

月日	患者の療養生活環境の観察を観察してわかったこと、気づいたこと
/ ()	
/ ()	

プロセスレコード

日時： 月 日

学生氏名： _____

患者概要：

プロセスレコードをとった理由：

場面状況：

私が知覚したこと	私が考えたり 感じたりしたこと	私が言ったり 行ったりしたこと	分析・考察

分析・考察を通してどのような気づきが得られたか

受け持ち患者と関わり理解したこと

学生証番号

学生氏名

--

基礎看護学実習 I 合同カンファレンス資料

グループ NO

実習病棟

学生証番号

氏名

テーマ：

サブテーマ：
